

クロアシナガコガネ 神戸市内に多産

(兵庫県甲虫相資料・288)

高橋 寿郎

クロアシナガコガネ *Hoplia* (s. str.) *moerens* Waterhouse は Waterhouse 氏が "Hiogo, Nagasaki" を産地として新種記載をされた種である (1875)。採集者というかこの標本をイギリスへもち帰ったのはあの有名な George Lewis 氏である。即ち Hiogo (当時の兵庫, 現在の神戸市のこと) が原産地のコガネムシである。始めにこのコガネムシの分類学的経緯について眺めて見る。

1887年 Schönfeldt 氏が発表になった“日本産甲虫目録”には本種の産地が“Hiogo, Maiyasan”とある。

1923年の日本の食葉コガネムシの基本的分類書として知られている新島善直・木下榮次郎両博士の論文の中にはこの虫の標本が無かったのか記載が全く示されずただ種名のみが出ている。そして産地の所に“Hiogo, Maiyasan”とだけ示されている。これは前記 Schönfeldt 氏の目録の引用である。

1935年の加藤正世博士による「主要金龜子科の分類 (3)」の中では *Hoplia* 属の中に本種が出てこない。

1938年沢田玄正博士は“日本産アシナガコガネ亜科”の分類論文を発表になった。その中で新稱としてクロアシナガコガネなる和名を与えられた。

同時に Heyden 氏が1879年に記載した *Hoplia Reini* を本種の変種にされ、また箱根産について同じく新変種の記載をされた。ここで初めて交尾器も示されると共に全形図を写真で示された。

ここでの分類は若干混乱しているようで *H. moerens* そのものは本州、九州に分布として産地が Hiogo, Nagasaki, Mt. Unzen しか掲げられてなくラインアシナガコガネ (var. *reini* Heyden) が本州、四国、九州に分布として多くの産地を



クロアシナガコガネ

Hoplia (s.str.) *moerens* Waterhouse, 1875

神戸市北区藍那にて1993年5月26日採集

左♀体長7mm 中央♂体長8mm 右♂体長7.2mm

U.Hachitani Photo.

示されている。

1939年の三輪勇四郎・中條道夫両博士によるコガネムシ目録の中ではヤマトアシナゴコガネの和名が与えられ分布は Japan (Honsyu) とのみになっている。

以上が戦前の本種についての文献であると思う。その当時この種はあまり注意も払われていなかったのではないかと考えられる。

図説も沢田博士のものだけのように思われる。

戦後一番早く本種をとりあげて報告したのは筆者である (1951)。その後1955年に近畿甲虫同好会編の「原色日本昆虫図鑑・甲虫編」が出版された。コガネムシは後藤光男氏が担当でクロアシナゴコガネとラインアシナゴコガネ、ヤマトアシナゴコガネ (*var. hakonensis*) にわけて紹介でカラーで図説された。

1960年野村 鎮氏が発表になった「日本産コガネムシ類目録」ではラインアシナゴコガネは本種の型に扱いハコネアシナゴコガネを本種の亜種に扱っている。

1963年北隆館から出版された原色日本昆虫大図鑑 (コガネムシ担当, 野村 鎮氏) にはカラーで図示されると共にクロアシナゴコガネ, ラインアシナゴコガネ (*f. reini*), ハコネアシナゴコガネ (*subsp. hakonensis*) といった別け方になっているが (1978年にこの大図鑑の追補・正誤表が出版されてラインアシナゴコガネは独立種にハコネアシナゴコガネも独立種に, 7eで示されたものは亜種オオバヤシアシナゴコガネに訂正された)。

1968年野村 鎮氏による「日本産アシナゴコガネ属の再検討」が発表された。ここでクロアシナゴコガネの変種とされていたラインアシナゴコガネは九州にのみ分布する独立種とされクロアシナゴコガネの変種として沢田博士が記載されたハコネアシナゴコガネの内箱根産のものは全く別の独立種となり新に本州の中部, 東部にいるものに *subsp. ohbayashi* を記載された。クロアシナゴコガネの色彩の変化から *f. typica*, *f. nigrofusca*, *f. flavicans* に別けられている。

1979年の野村 鎮, 小林裕和氏による目録によると上記のようなわけ方になっている。

1985年小林裕和氏は本種の基亜種並びに亜種オオバヤシアシナゴコガネをカラー図説された。

1988年の石田正明・藤岡昌介両氏の目録では *f. nigrofusca*, *f. flavicans*, *subsp. ohbayashi* すべて *H. moerens* の中にふくませてしまっている。

以上がクロアシナゴコガネの分類学的経緯である。図説は一応あるがあまり普通に得られないのか関心の程は今一つであり各地のファウナあたりにもあまり出てこないし, 出てきても産出状況とか生態, 形態に関しての解説がないように思われる。したがって一般にこのコガネムシについての関心は薄いのではないかと考えられる。

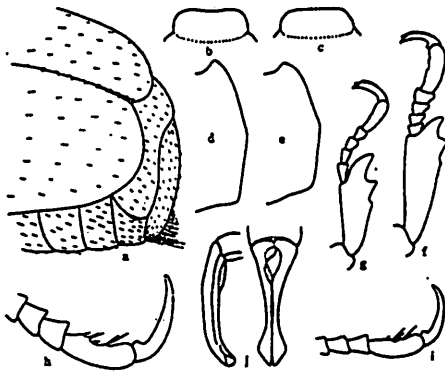
さて神戸産で記載されておりながら神戸での記録はその原記載以後全く見られないし, 筆者自身も神

戸市内で採集をしたことはなかった。

兵庫県下では大体中央部から北の地域に記録があり特に筆者は氷の山で多くを採集した経験がある。この種の分布は現在本州（西部）、四国、九州となっている。

参考までに本種の神戸市以外の兵庫県下での産地を次に掲げておく。

川西市笹部〔仲田, 1978〕。加西市青野ヶ原 (16♂♀, 14-V-1940)。多可郡三谷 (1♂, 8-V I-1975)。神崎郡大河内町川上 (1♀, 15-V II-1977)。宍粟郡福知溪谷 (1♀, 3-V I-1975, M. Yuma leg.)。音水 (1♂, 11-V I-1972)。坂ノ谷 (1♂, 1♀, 9-V I-1973, 1♂, 1♀, 22-V II-1979)。氷上郡〔山本, 1958〕, 神楽 (1♀, 1-V II-1951, Y. Yamamoto leg.)。豊岡市大岡山〔高橋, 1975, 1981〕。養父郡氷の山 (2♂, 22-V II-1954, Y. Yamamoto leg., 2♀, 25-V II-1955, 47♂♀, 27-V II-1956, 51♂♀, 21-V II-1958)。美方郡扇の山〔湯浅, 1960., 辻, 岸田, 1972., 高橋, 1975, 1981〕(データがついているもの筆者採集並びに所有標本, 但し現在これら標本は県立人と自然博物館で保管)。



付図 5.
Hoplia (s. str.) *moerens moerens* WATERHOUSE
クロアシナガゴガネ
a. 体後半部; b. 頭部 (♂); c. 胸 (♀); d. 前脚骨 (♂); e. 胸 (♀); f. 前脚 (♂); g. 胸 (♀); h. 後脚骨 (♂); i. 胸 (♀); j. 前脚 (♂). [Nomura, 1968]

1993年5月26日神戸市北区藍那での調査を蜂谷幸雄氏と一緒に実施した。標高 217 m 位の地域で付近に溪流がありそれにそって藤の花が見られた。最盛期を過ぎており花といってもごく僅か下っているといった状況であった。この藤の花をなんの気なしに捕虫網ですくった所数頭のクロアシナガゴガネが入って来た。そして多くの飛翔する姿が見られた。藤の葉はまだやわらかいようでその葉にとまっているのが多くいるようであった。食害しているかどうか高い所にあるのでわからなかった。20分位丹念に

藤の花をすくい飛び立ったものを捕虫網で追いかけ、なかには飛んで捕虫網の外側にとまってくれるものも多いた。結局 154♂42♀を採集した (体長は 6.5~7.5 mm であった)。♂♀の数の違いが大きい、この時期このような割合でいるものなのかそれとも♀はあまり飛び立たないのか。早く逃げてしまうのかよくわからなかった。

こうして採集した捕虫網にヒメアシナガゴガネ *Ectinohoplia obducta* (Motschulsky) が1頭とカタモンゴガネ *Blitopertha conspurcata* (Harold) が3頭入ってきた。

この結果原記載から実に 118年目に原産地と同じ神戸市内に多産するという愉快的記録を発表することが出来た次第である。

原記載が発表された頃から神戸市内には普通にいたのではないかただ関心が薄いことから注意されなかったのではないかと思われたりする。

さて採集出来た 154♂42♀を並べて見ると色彩変化がわりとある。一見黒色のもの (*f. nigrofusca*) は22♂程で♀では3♀しかいなかった。

前胸背基部、小楯板、上翅会合部に淡黄緑色または青緑色の鱗片を布するもの (*f. typica*) のものが今回の採集品中では大部分であった。淡黄緑色または黄色の鱗片を全面に粗布または密に布するもの (*f. flavicans*) というのも割合少ないようである。この色彩のものは県下中央部から北で得られるものは大変多く氷の山で採集したものはほとんどこの色彩をしていた。したがって背面の鱗片によるの変異はあるとしても型として別けたりすることは必要ないものと考える。移行的な色彩をしたものがわりといる。また野村 鎮氏が記載された亜種 *ssp. ohbayashii* Nomuraも記載文とか図などから見てクロアシナガコガネ *H. moerens*の中にふくませて考えた方がよいと考える。

以上神戸市内にクロアシナガコガネが多くいるという報告とそれにまつわる若干の解説をしてみた。

末筆になって申し訳無いが調査に御協力並びに写真を撮影して下さいった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。

参考文献

- 石田正明・藤岡昌介 (1988) 日本産コガネムシ主科目録. LAMELLICORNIA 1st. ed. Supplement. P. 29.
- L. v. Heyden (1879) Die coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875. Deut. Ent. Zeit. XXIII, Heft. II, P. 339-341.
- 加藤正世 (1935) 主要金龜子科の分類 (3) 昆虫界 3(15):158.
- 近畿甲虫同好会 (担当 後藤光男)(1955) 原色日本昆虫図鑑・甲虫編. P. 100, pl. 31, f. 680, 681.
- 小林裕和 (1985) 原色日本甲虫図鑑 II. pl. 69, f. 17a, b, p. 387.
- 三輪勇四郎・中條道夫 (1939) 日本産鞘翅目分類目録, Pars. 5. 金龜子虫科. p. 73.
- Nijijima, Y. & Kinoshita, E. (1923) Die Untersuchungen über japanische Melolonthiden (II) Melolonthiden Japans und ihre Verbreitung. Res. Bull. Agr. Hokkaido Imperial Univ.

- Nakane, T. (1978) Sapporo, Japan, II, 2:78.
- 野村 鎮 (1960) Anonym. Icon. Ins. Jap. col. nat. ed., II, addenda et corrigenda. p.5.
- 野村 鎮 (1963) 日本産コガネムシ類目録. 桐朋学報 (10): 57.
- 野村 鎮 (1968) 原色昆虫大図鑑, II, 甲虫編, コガネムシ科. pl.62, f. 7a~e, P.123.
- S. Nomura & H. Kobayashi (1979) 日本産アシナガコガネ属の再検討. 昆虫学評論 20(1/2):52-64.
- 瀬田玄正 (1938) Check-List of Coleoptera of Japan. No 15:1-20.
- Schönfeldt, H. v. (1887) 日本産アシナガコガネ亜科. 日本の中虫2(1):33-48, pl. V, Figs. 3, 8, 10. pl. V I, Figs. 4, 5, 6, 10.
- 高橋寿郎 (1951) Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezuglichen Bescheibungen und der sicher bekannten Fundorte. Jahrb, d. nass. Ver. f. Natarhunde 40:106.
- 高橋寿郎 (1983) クロアシナガコガネに就いて. 兵庫生物 1(5):95-96.
- Waterhouse, C. O. (1875) 兵庫県のアシナガコガネ. 兵庫生物 8(4): 231-232.
- On the Lamellicorn Coleoptera of Japan. Trans. ent. Soc. London, P. 100-101.